燕石十種中

古戲場說

四輯

五

679
96

679
36

燕石十種第四輯卷五

中古戲場說上卷

江戸書繪　活東子輯

文化元甲子年堺町歌舞妓座幸猿若（中村ト号ス）勘三郎芝居寛永元甲子年ヨリ年暦百八十一年ホドヲヘタリ壽狂言奥ノ方ヲ帝ロ上ヲ寫ス

今禪口上書ヲ以テ書ヲ中上ル

先祖御町中様ヲ蓋御勇健ニ爰ニ拙座恐悦至極奉存ル随テ私芝居ヲ儀數年来内奥ニ願奉ル永禄ヲ是迄不相替狂言座相續仕ル候雖有仕合ヲ奉存ル為當年去甲子ヲ以ヲ筆ニ相當ル仕ル壽狂ヲ云ヲ當ル日月廿日ヲ日數三百ヲ間猿若ヲ狂ヲ云ヲ不絶年（ヲ）門松ヲ中狂ヲ云奥ノ方仕ル間ハ先来ヲ見ル為永禄ヲ以ヲ拙御事願ヲ云ヲ右甲子ヲ歳壽狂ヲ云ヲ歳ヲ私芝居元祖勘三郎御當地ハ般若堂ニ付元和年中ヨリ當地ヲ男歌舞妓狂ヲ云座仕ル候ハ頃甲ヲ云ヲ寛永元甲子年天下泰平國家安全ヲ以ヲ例ヲ歌舞妓狂言座ヲ穀櫓御高免永禄ヲ羅有別中櫓ニ於ヲ初ル舞ヲ踊ヲ

紋所を付ケ古敷檜を揚牡丹を庭に仕候中に後に仕候に成家々紋所を
抱澤潟に成候に得共右舞楽を紋所を仕候後元祖勘三郎後に当地に
牡丹仕度心願に付元和年中より仕願中上候処右願中之和尚様心れ〳〵きふ
銀書をのせにくく冨士心の頂きを勘三郎家に三年迄あと共見〳〵成
爰さ共不思議に思ひ時の古者より聚同せ〳〵に為様に日中〳〵名高ふ成ふ
形共八方人〳〵笑物成り銀書を形ふ〳〵て未廣なり是異朝小名を舞〳〵
て形〳〵舞〳〵家と成〳〵き端なりんと判断を目出度事と思ひ〳〵杉柄願を願
御言免を蒙り〳〵先中橋より おかく〳〵嬉古敷檜を揚ケ則家の紋を舞楽と
改め用ひ来りに寛文後舞楽に銀書を古改今以相用
中に延宝寛永九壬申年中橋より禰宜町に移り又に慶安元年卯年堀町に
當府当不当芝居相續仕に元祖勘三郎より私近年数百八十一年牡丹庭相續
仕に阪城以御當地におかく成貴様下に仕蔭と雖有仕合に奉存候義又
中上に通百八十一年以前寛永甲子年と申当り成る右〳〵甲子〳〵寿ら て

元祖勘三郎儀政所に猿若と牡丹仕事を以〳〵古来より牡丹仕
古来古めく〳〵きかし斗の所仕牡丹より庭に当付し所見物様方の
中間より当り所の儀に成る庭方すぐ〳〵に浮世晋庭〳〵き牡丹と言
見物様方如下に拵仕事預上に成る若寿牡丹中元祖勘三郎〳〵私家より
伝承仕候上に成る舞楽より当り舞楽より おかく〳〵古被為中上に

一 猿若の衣装　一 金ン麿
一 吉地金ン猿若の衣装　一 業祐法様若の衣装
一 御簾の揚まき

右〳〵に〳〵元祖勘三郎より四兼方〳〵に拵〳〵私家より伝承仕
に今般甲子寿百八十一年来牡丹庭相續仕に成る浮世
〳〵成と能有仕合奉存に間舞楽の おかく〳〵御見物様方に拵成中上に何卒御
寿牡丹三日〳〵間舞楽の おかく〳〵御見物様方に拵成中上に何卒御
中様方に仕合古見物に出申〳〵牡丹に拵仕事に成寿を祝〳〵おしの揚物

無當中上流義太浮世祝儀八丁用捨まあつらえ家業諸以
数年来市尚地まあるゝ程云庭奥別住儀八丁町中稽古出義
故と世系不易加古し隆と市拔義中上流先年より寿狂
云と義を古代来し尚と云用来以上を以中上流儀を市川海老蔵市川
家是迄中上来以仕古例尚七代目市川團十郎辞臺多年口上
を以中上流まと初年と身分高ク何義を多不得已又以戸拔生の
團十郎と中上流高市用捨と来下以拔俗を希上以上

元祖より甲子三度びの星霜
凡一百八十一年に及へり

観子
明石
三外

寿きや十一代乃家ざくら
うちはゝ家を絶穂や花の枝
賀章
茂山千作

わざおぎの本卦がへりや辻ゞ妻
文化元甲子年　初夏

十代猿若
小村寿三郎
同伴
明石
白猿

此程云四五日と間奥別江戸町と分祝云して見物者に由芝居
向茶屋と中へ金所を建古祝義相拵糸とそのゝ酒吸物
饗應と上見物させり由玉来と長柄と傘をさしてけ舞臺
ゝ拔義せしあり と予が方へ出入と町人祝義相を始へ節の事
直相語なり

柏延

江都伎藝四天王ハ随一となれり〳〵稀有〳〵実ハ藝の外ハ妙と云べし文者ゝて侍家の豪傑と称し〳〵て可之一年（寛保元酉十月なり）大坂佐渡島長五郎産ハ上ゝ〳〵に新見せいとやか〳〵偏執せ〳〵者も有〳〵由翌春相云ハ神山山猿の相云久米寺浮正（今ハ伝毛抜と云）と号神上人おゝ尾上菊五郎雲ハ絶写柏延大切不動明王の写像大尚り京都ハ云ハ不及和泉河内まても遠く群集し〳〵京大坂の眼を驚うせ〳〵と夏嵐七五郎中村治郎ハ三ゝ〳〵回ゝ〳〵て涼ハ出〳〵五度あゝるまでの事ハやさりぬべき業樹〳〵侍し絵涼せ〳〵其家より醫師の出く帰るとゝれハ又幸人の醫師来り診察（ミテクラシ）調薬ハ七五郎ハ病人ある称ハ長座ハ年間之家内も迷惑ハ〳〵と成る志〳〵ゝとせ〳〵と中村治郎ハ云ハ〳〵ハ形ハ亭主と称ハ寿ゝと聴ハ〳〵志〳〵〳〵有〳〵立出柏延ハ

むひ是なる獨娘なるが去秋のころより瘧（おこり）して焼灸するが為に種〻湯液
八物湯且祈禱咒咀（まじない）の類を施せども一向験なし今八月廿七日
此病を除癒せんと悩み呻ぬ是よりつゝ然ハ此家家内殷
の不動の威力毋〻為して見せくるしまんとても障りす
あるじと志さつゝ云柏延笑ひ〻しく汗なして不器せしす
まして狐の付たる女を為したり是全く僥倖なり主人此を
見れ壮年の血気ともに強きれば為しとゝ雖今年老年母
及ひいうでさるるすあるべき所用なり苦しむ為より亭
主立出ゝ一座の語話（ごわ）濃〻相中座より先祖より重参類なる
地方相語り具なる物語りいひぬあれば柏延考えて中さ
たとく為ゝ申いとゝもおしも苦しうず皆類を慰さま
分移ハ主人乃生死安危ようゝ申するて万一事迷ふ為此
む重極の去厚情とも相なりしを実ゝ余義もなき称なりし所

七五郎も苦〻ゝ希望をゝ〻ゝ〻ふ〻ば柏延もせんなきなゝ〻ふ〻ば
ゝ結れなと口濁（ウガイ）なるゝしてを拭なて改をつゝ懐中せ
汗を拭をゝ〻ゝて来るし也招請を携へ病人の座敷
案内させ病男れゝる病女を柏延命じて抱おこさせ畳
をゝんさせしめるふべしと云ふ事を詞乃ゝ〻記して云
せゝ〻ゝば病女もゝ〻ゝと柏延を見るゝ事時柏延伴
の短刀を抜放ゝ汗を拭ゝ紙の縄ふゝ〻ゝ立上り病
女を白眼（にらむ）ゝ勢ひ激ふ別人のゝ〻ゝ〻ゝ病女一目見るゝ
戦慄（ふるへ）ゝ〻ゝ〻ゝ歩ぬ柏延を志ゝ〻ゝ〻が祝（ほく）せ
ずふ〻みつけさて元のゝ〻ゝ紙刀を細色元の座ふ坐ゝ又
ゝ〻ゝ〻ゝして汚茶垣ゝも元（書損ナルベシ）のゝ〻ゝ病女八丈ゝ汗出る事
滝のゝ〻ゝ瘧（さつり）を除形ゝ為ぬ七五郎三歳の年柏延を
洗せゝ〻ゝと亭主立出ゝ〻かゝるべゝと爲ゝ〻ども為ゝ〻なば

さて〻り市旅宿へ帰り新中つきを呼て近醫師四人まで療治をうけ薬石験なきなど聞まほしく奇妙やゝさん妙とやゝそれと雀踊して悦び夫婦ともに柏延を礼謝をなしとうや

享保地中法中村座樂屋番北妻よ狐付〻〻そ衣類を〻そ場所を引居〻り〻を柏延ハ去る比何事の用有と呼へ行ぐ〻ハ心ぐせ〻や今日ハ何と〻て出ざるやと問〻まゞうの仕合を引込〻と答〻よ柏延戯れまとれ白眼おそ〻てとふせん物を〻と云〻をかさなるに明日呼に行者ハ法を掛へいざけ〻ぞ今日ハ明ゞけ小立ようふ〻と落して呼へ〻と申云長ゝ柏延をゆ〻〻憎〻と思ひ〻ふ〻云〻〻柏延ハ今更引毋ゆ〻ゆるゝぬ事と成さしばゝ〻〻み落して名毋呼すべ〻去なゞ〻先我毋ハ行れとよう先へ明宅〻ゆゝ毋用さもあり名方ハ芝居漏〻家宅へ帰るべ〻母屋やさんと

絵を仕まふと早〻明宅せ〻〻なり扨入相比約せ〻〻あ二人来りいざ母屋へ〻〻新ハ重屋なる由お法れ件の宅へ引ゆり柏延病人ハいづくふ〻とやふ夫ト二階へ死生と云を柏延きゝと申と〻〻去先小立二階乃もゝ〻まる程上るゆゝやゝ件の狐付恐れたのゝき去年比先ハ立去中べ〻と色も遠へ落涙して泣〻り柏延立よ〻家を屋〻をのれ今立去とゞんバ家計ふ名ありと磯とおゝみ〻その物ひふ狐付色を屋んゝして立上り二階よりさも急ぎ〻走り皆ぬきふ倒きて手絶志〻り夫ト夫より柏延を皆母屋へて〻〻〻抱して寝させなり小母ひ行もゝ苦労なゞふ家ホ乃宅へ立よう話るべ〻と倡ひ今日の柏語りを志〻り母屋の楽備〻今日地ホ柄甚次感心恐入〻りいで〻〻る事屋〻と問〻ふ柏延々情中

より小服指を面出し〳〵今日のるハ是なり畜実を真よ宗として
云〳〵事を仏も畜をこまし〳〵せん為ふ〳〵み為せと云れし〳〵畜
元年付覚悟をきハめ第一為ずんバ狐付を一刀ふさ〳〵敷し
畜も其産ぬ〳〵自害せんと心を決して為〳〵くまた狐も我
心をさとりて迷為〳〵相なるく〳〵と語り〳〵ハ因為の役者
共皆〳〵肝をつぶせ〳〵と也是云とよ勇気のなす所なるん
哉ら也伎藝の外とく〳〵とも自余の者ハ為ふ〳〵乃ふ所ふあず
と云〳〵

一

古人山中平九郎ハさのみ大無といふ〳〵祢とも一躰元れ
有人ふ〳〵悪家老二義左衛門又神君化牙妖怪なと云る忠
〳〵幡の丞生れ為り〳〵去にしるおよふなり〳〵実事
師蒙る師なと行れも平九郎ハ〳〵と付〳〵ると云と〳〵
新のあきやう〳〵に見〳〵元身元自然ハ牙のちぐむハよ覚

〳〵と云〳〵と〳〵
宝永の比なるや本橋町山村屋あて柏莚姫て乃志ぢ〳〵くの相ハの
公家平九郎之〳〵平九郎心中ハ何系アノ二牙めを云とふ〳〵に
てくれんと云〳〵ハ初日ハ切幕ハ志ば〳〵くと変をうけ柏莚
柿の赤ふ袍ふて出ぢ〳〵祢を云ふ内平九郎瞬もをずふ〳〵付ふ
ふり添を例ふ毎ふ玉産ふり引ふ〳〵ふ〳〵宝物を面返ぢ勢ひ幕
際まで姫てと云ふ〳〵格別なり〳〵と云〳〵ふ者也ふ〳〵
概初日ハ泄て平九郎柏莚ふ向ひ今夕者の四来ふれよふ変事
ありとふ〳〵柏莚ふ〳〵と云〳〵ふ中ハ名ふ〳〵ふ平九郎なれバ
今日ハ芸氣ふ無ぜに畜を拒絶仕面をふ〳〵ふ〳〵ふれよなどの
事ふも志ふ〳〵ぢ〳〵ば畜ハ得心ふ〳〵き中と心ふかふり平九郎
宅に立寄〳〵に奥へ使ひさ〳〵〳〵向ひて平九郎中ふ〳〵ハ生ふの仕ふ
仕ふち玉以威〳〵入実ふ我を折ふり玉世産ふて姿を客ハふ

源之丞を経廉山大行先の後ふて幾度〳〵虎を付る手付より
も天時多〳〵なりとの事なれ〳〵と其後之丞おもとなり〳〵
後者日かに〳〵みなると謂の外に弱〳〵成中ふ学〳〵に成客
計ハ家既よ今日精神を励〳〵ふ〳〵みなれ共一向ふ物の数とも
思ハぬ様なて勇氣もげ出有様中〳〵古親父の戈牛も及ハぬ程
の勢而者さる様ふ今日云とにらこと思〳〵ふ業ふ遠〳〵
本藩臺にて宝物を元返さき〳〵勝ひ却〳〵ふれ出ろ
く思ひ〳〵これすれハ有ふの後を反刃〳〵ぐ之古今双ヶ云
べ〳〵我ハ老年なれハ近年のうちふ死去べ〳〵家を紀源ふ
ふも之を勿ものすず勇なハ藝乃ふつ〳〵者首づ〳〵ん
此事語らん為ふ今者招きい而之懇よ物語〳〵て呑せ〳〵と之
柏莚此るを海先ふ語り〳〵を海先ふ此猫ふ語り〳〵
と之

一

三代目國十郎（姓号外名）徳雑姑ての五郎の時柏莚教訓よ我む〳〵姑〳〵
五郎をを〳〵時工夏ハ故山中平九郎なり〳〵家工夏を見ると
実ふ出〳〵なりて花〳〵らんとせ〳〵されども寸すぐれ平九郎
なれ共ふも云ざり〳〵と之後中村座ふ〳〵祐経小川善五郎十郎
よ祇子姐此ふ十町〳〵我五郎ふ成なり共ふ物あてせ〳〵ふ
初日の板善五郎家宅ふ来〳〵云〳〵ハ古分の今日の五郎時致
ハ実ふかく〳〵有〳〵紀物之事評判面の的家を親の敵と雪氣を成
〳〵て出〳〵まれ〳〵時家稲先〳〵きいやりとせ〳〵と云〳〵
此者五郎ハ為る事なる者なて虚言怪語なきそのなり是を方
一乃教訓之と〳〵〳〵を時徳兵当付誰ふ氣ふ叫〳〵やと問〳〵に
柏莚答〳〵ふ〳〵ぶ伊三郎と云〳〵之五徳兵ハ伊三郎をかと
ふ分〳〵勇〳〵と云〳〵教訓せ〳〵此ふ〳〵藝よ越りてを
なる〳〵も一云の是非善悪此ふ及ハざり〳〵と之是享保十

九年の春之徳雄世間いまゞ元服せず外五郎小成て居たり
若流まて虚名得あるわれ空嘆よ語くせしこと志田が
めのと文蔵」國安小栢莚」同女房小袋考」元祖文蔵初て往病れ
仕うちを尾の新吉大吾丈右衛門を切殺し手生傷を切先小母
き栢莚小くるとせると忽勇氣小なる牡云女人と当りしこと諸
工義い産元竹と恵実工義之鬼王度治侯世の六郎元祖國義之後
者拵ふて当りしも世世間徳弟こも俗英男列して評判よ
うりしく其後元文元年玄牡云一番目栢莚京の次郎と
川黄を縮布羽織ものしの書茶牡丹の黒少袖を
徳弟小あくく始て北助六をせよと譲り二番目の助六の筋を
云しく其時栢莚京の次郎と京清二役を番目の結小浅妙
観音の絵馬稲葉六郎左丈小なる軽姐を孫くふ頼施場よ
かりしく二番目伊乳山かくれ家の義経と云男伊達本名

俣野の五郎白髪乃男伊達風雅よ志ろも拵き仕うち五郎を
助六ふ仕なる藝弱らしうりしく世時工義八海老始くの祐経
悪工藤の当り拵とふくうりしく世助六よ重髭の意休ノ始く髭の
意休と云者出来意休八市川宗家なり丈まてをかん屋ゝ門を閉汁りと門を閉ハ海老之
徳弟を栢莚とは遠ひ天八郎て八丈切角と云流行唄を天八まて
吹うれしく是又弱しくこ居始悦びしく海老の門を閉居を奇
業なる悪小色よううし揚巻八澤中要川上京して病死徳弟
芸男中くありしく助六なる国七月より芸我後日と号しく累
諸を元祖十五日ふ出せしかさ孫よ袖濤業を帝」ゐん宮御ゝ産
元竹と恵子右衛門実八累清小栢莚舞台五帝市川歌十帝法名
上人舞屋南小娘きくく市川海義若事形り九月下旬小始て
入義ず十月十四日北追せしく出来程云と云内栢莚強弱を兼ね
うしをくるくるる西白うりし

ちゑこゆゑ云ひ直し年累の狂云毎度見しかど本物をなぶりして
仇なる事なく面白うもなく去程小尚りもなし一体累の狂云の
始末享保十五戌七月市村座なる大お猿茶屋源氏と云ふ名
題あり百姓與右衛門中村新左衛門かさ孫小三郎勢右衛門
聟の宮五郎中村吉右衛門関取音羽川本名佐と本三郎
盛綱妻累元祖娘きく山本亀松吉羽川の女
房丹後歸川方業なり始ての累大ひよ尚りしく其
比を中村座の生臨市川座のかさ大尚り成毎年
家と狂云のゆゑに中せしくまより累の狂云は死霊
解脱物語りをなし之新に閻魔を出せしく初日が
十日なと座元親子柏延父子其外立者の役者素新
麻上下あて幕は外へ出柏延口上を述しなり生臨の事
八訥子伝小宮しく記

延享三丙寅年正月夢我の狂云京清柏延重右衛訥子ふく
弩舞の仕うち毎人七郎衛志乃衛まて娘形を勤めの世毎人對
の袖なし羽織浅黄頭巾對の衣装ふて浅間がしらのたりしを
坊様山路破れと衣ひいふうこいよいよいとかたぐ仕うち誠
小名人四十郎面白うしし其次の幕新地大佛供養れ場
京清が伯父大四坊に親三浦右衛門京清を訴人せんとかけ出す
を一刀ふ切殺しその衣装をさくり舞台をすてゆるくと
着くく長刀ひい辺頭巾をかぶり志ぶうまもしがりを切
幕へゆくうしろより訥子重右ふく鳶帽子素袍の片
くをぬぎ中啓をもち京清待テと奏をかくる不初日前
狂云毎度仕しくれた何分乳ふ十四
す毎人も屈せしふや明日の初日ふ舞台まて鬼と角をせん
と訥子云しふ柏延もたちうと別れしを他者もしめ頭

ともに立和の高人間の和いうあんと雲氣をしと起
習ふ事の件の場ふ柏莚三甫右衛門を敷しを衣裳ふ
着く薙刀拔ふつ紀のさりしと花乃を切幕はうくまい
彩きとそや調子呼ぶうと呂ふ呼ぶ又二足三足行く呼
うと呂くどぼずうつ柏莚例の氣象出おし憤激してさ
らばぐっと切幕（這入調子ふ）ぶせくくれんと法ふ
と足早に切幕乃際まで法ふ行く薙刀の先ハ早切まく
ふ尚るとふうるると調子例の響き流れる大音ふて七変
マテと変をうけしゆくふ柏莚も実ふ怕りして振り返り
ふらみしを驚ひ見和地寄ふ呂くしを一回ふどつと敷
うり大尚りく泄付の立藤方ふ調子ふ行るゆうれとも
柏莚が実ふ這入る寄ふりしふ実ふ名人同志の法り合面白
きるるらばやまりハ特更云合ふ毎回しを出来ふ

法元和の目を驚ふせしふりて初日正月二日その藝を志さ
しくくうしを一志ほ感じふ
柏莚ふ立藤も変くくくうしふ又格列之延享三四年の法りと
覚しを中村座ふ祐經ふ柏莚十郎ふ小長（中村七三郎）五郎伊郎
ふり立藤江の活系清として染和ふて出しを五郎と十郎染
和とさしを立をを称ふの立を引物ふ京立藤もさ記法く
めの花やうふる衣裳ふて見栄をふらみ身ケ法の律が見栄の
子ハ一万箇五ふハ敵人しナアと云しを対面ハいふふ物凄ふど
ふりし立藤ハ似セ京清之本立藤ハ市川家之郎之見ふて
漁父之穂の白鼠ふり京清白鼠を敷して羽衣を奪元
しを白鼠が元魂京清ふ身ましを羽衣を返せと云が狂云
地帯ふり三羽衣ふて二番目の法ふ路考元祖天人羽衣の本作
見立又書ふり

此一条を粗云ふ所あり、孫と柏莚が礼節こゝろなるべし潔白
なる事なれども記之元文乃比の比元文河東と柏莚
とは心易き中なれば或年の九月柏莚四侍を伴さんと河東
に一席語まうしられよと約し侍きする約りと三弦
山元源四郎おくさまり〳〵小源四郎按なき出入の方へ先
約せし所第〳〵孫でなるべそれ柏莚方へ参れ小もか
の三弦ひきを連行ゆく〳〵と断り〳〵れ是非なく手比山の方へ
来人ゆく〳〵は河上の上より何ぞ〳〵と云〳〵無力の有〳〵を
河東殿を面もう三弦引の孫まて四人せんと云〳〵けり
柏莚方へ行ハ来面白き事小ゆえ急ぎ出て行〳〵母
河東も座ふ若伴はんを三弦引の様より引合せ相浮
猶理二三席語り暫く〳〵て河東まハ吸物置酒なを
出せ〳〵伴の人まを一向よ吸物も出さず河東も氣の毒ゆ

あもひ手人を玄不審〳〵て居ようしに去ぐ〳〵有く柏莚
下座の方より衣紋〳〵さ小袖麻上下を着〳〵吸物の猪腦を
小河東よ出を〳〵〳〵を按拶よ目立〳〵結構なる家具ゆ〳〵
腦を出を〳〵れハ洲人来面〳〵〳〵柏莚ハ元の座ち表居を
座ぐ〳〵恬〳〵て私風情の人洲人の宅ハ座敷と様とハ中なる
〳〵せられ元を座の席賀加私稽舞佳合一番上指を〳〵先生
小箸を〳〵せられちさる〳〵玄先を別席ゆ所仕政佳
浮を〳〵浮よ小なる石上石上を上を墨出指を〳〵と為を法を所
を要小舟平伏〳〵〳〵洲人を一度接拶小〳〵れ酒を小
〳〵欲れ〳〵と居ると柏莚ハ次ハ立本腦指糸やき物近引又表
居を〳〵ぶて〳〵浮源（ウキヅマリ）〳〵居さう洲人を元来名ゆき遊人を右
のあ〳〵らひ氣詰り申を小〳〵〳〵快ようとて河東よう
先〳〵平〳〵〳〵〳〵〳〵此的稽こ河〳〵〳〵るハ一生よ覚ぞ

とて平が女部屋にのぐ〜に語り慰さ〜平の部屋の窓
形合せ歌を交はす梅若くん吹き〜縁して梅莚の糸をう
らと嘆くに右衛の事あらば永く絶交するときび
し〜制し〜うとくや

一

元文五庚申年市村座春狂言角田川は梅莚業津の帝左衛門
まて屋つ〜西方元眞右衛門とする浅黄頭巾のよく
うけ見ぶ〜高袍の下むしろうすして横乃枝を肩よりけて
の出腰元さおよそおやらくらし東の方より面業五郎右衛門
あり吉田が将座元宮右衛門〜不化育てむん女玉
沢女房帝」は面をつけせんと先始の名を動〜と屏
の面実の面とつくられ〜我を折らう又志むし〜志て
横姫は激中河川は面をつけせんと唱し不今度は塩吹
列〜てよく似うし〜を涙ふもん女横姫志つと左

生母志つと吹き般若はとそ〜吳服の為小船若の面を
つけせんと泣き〜小凄い祇よく似うし〜を涙は蛇の面
仕帝は幽〜の面之是を志〜けはすて口をつとつと泣き
し不久米平四郎海丸まて動使を宰の熊王に村山左
帝右衛と云中役者と一不は悪事をあ〜〜部屋の一老を
盗ましを出せ不奥より是を志左衛門つけせじと
海丸手を拍〜一老を後へ志すと伴の面巻物を引ふて
引とる是はと吹き面を志ゝんと吹〜ぎ〜押て
引て吹ぬ不面白りし五ツの面どれ〜も眉毛唇など
動〜左梅莚志うと知れたり此面は茶坊主よ多ぐ一度
ならでは世ざう〜対の外胃を打〜とする
部屋梅莚は神妻の化身事の名人也奉ふ〜汁も不動奉
遠磨豊干禅師毘沙門章法天庚申抓伺も奇とふべし

豪覺〳〵書記言左ニ記セ諸小十分ガ一と云へ〳〵

一新田四郎四段　冥加　一伊勢海老あうん多聞　実いせ海老ハ七月ハ伝達奴の為ノ多ク

一助六　二度　一縁ガ仏母　いまゝゝきやつ〳〵

一外郎売　二度　一明神　ひとりて二度大当り

一分銅五郎　或度　一鞘野郎　二度

一義三七ト矢竹二段　二度　一矢の根五郎　二度

一関羽　二度又関羽一度　一面打元曽我奉行　実ハ曽我奉行

一不破伴右衛門　一皆く　ひれえ〳〵と五度ヤリ

一ちゞき売　ハ当りのよく紙幸也ゑん

此あり数多あるべくれとも哀れ〳〵時記ちれいさだ〳〵

此先年柏莚大坂あり〳〵明神上人切に不動の大当りを

京都ゑもうつして見せ〳〵大坂にわり見物せ〳〵ゆく京へ

ちり〳〵回勢ちりと上方者の咄〳〵仕快人品より始免実

小坂道の妙子と称すべきい柏莚なり

訥子　始義十郎　又号五郎　後号助市　宗十郎　長十郎

訥子元来京都生れ宮家大臣家の法皇八木氏の三男

なりとりや放蕩ゆへ出奔せ〳〵ども又動乱を更〳〵ども

ふ京都の名人沢村長十郎を形を寄合〳〵てみ〳〵ゞゝ跡

よりき成長十郎の世話まて楽屋の相書小出され〳〵毛氏

なる四五の沢なり〳〵毛四小自分好ゑうて長十郎宗ゑ

役者と成〳〵一躰芸量もあり芸用ゆれとも芸

ハすゝ格別ゑる成才ゑゑ先沢村を名のふせず深

山義十郎と号〳〵中村乃顔役く出せ〳〵毛当ゑ〳〵ゑん

〳〵万延元年宝永の沢村長十郎と改め〳〵く然る小成時

小長十郎小四ひ京あゝ役者を意ゑ〳〵ようて沢人

なり沢村善五郎まて勤め〳〵うどさ成ゑ人の目有ゑ

立ざりし間五年目中村座へ移り故柏莚五郎まて所金
文七俳名（捕手の役人）酒子なりしが柏莚酒子を藍羅
（投込まれ）まで出ての藝ありて面白く始終
なりしかりてなりしかれども日数小唄うたひて宗
十郎と改め二年目まて市村座へ始て十郎祐成たび
小歌うたひ柏莚五郎十郎あり酒子いよ〳〵
上手の言名高くなりしと享保十年ノ十一年の比より松本
幸四郎大谷廣次を下まつけ落と八柏莚酒子と称せ
られし後は十二三年比役者なの出せしハ藝尽の
妙を得しうとなるべし一生の間り程云数多き故悉を暗
記せざれ共一中村座嘉祝云十八公今板賀我あり〳〵京
乃次郎酒子」二孫市川宗三郎」二条勘三郎五郎」萩野伊織
伊勢七三郎」姉川（役り落名）新四郎二役（元祖落名）浪考ことら」玉沢（役り落名）次郎
甚年ハ中村座役者なくなりて座組ハ只ふよりなく孫ハ曽
まで「と評せしと市村座ハ柏莚嵐三右衛門大谷廣治坂東
彦三郎女形ハ瀬川菊次郎神崎菊之郎早川新蔵敵
役ハ坂田市五郎姉川十郎右衛門中沢三郎右衛門其外も役者揃
と云しと先芽我不面り云三月節句より角田川（又人男を也
し座本男揃（是ハ不面りこ盆和まて以
上程云四つ迫かく柏莚ハよろしうせし是ハ祖之中村座ハ姉川
新四郎一番目伊勢七三郎似せ獄門より其上小浪考始ての
石橋お生獅子大面り敵番目酒子京の次郎狐の女郎買
（もと狐宗化して吉宗（行き先より合ハ
踊られ柿の葉なりと云ふ云へし）
七子あり〳〵犬の足を切りまふ犬を分
足跡を狐ごとせる仕うち志やれおり〳〵酒ふのぐ〳〵
柏莚ハ眼病すて敵打れぬ伊ゑ乃ハ本復させ口舌ハ敵を
うしなせんと浪考と夫婦の中ハ和ありけしむすめおり〳〵

工藤が妹この年より辰年辰の月辰の刻出生ゆへ生縁をとり
工藤を怯気させんとの実義調子ハ二階なる海士のうしひ
を淫なりしの愁歎様子も一向ほめぬ者共まへてなかり
しく是工藤が悪心ありて十郎辰ぞろひの生れ成敬さん
そのあくみさせて件の生ぎもを工藤にあたへると眼疾
いやり祐経が両眼蛾のちふまであたへるヤイと両眼クハット
みひらくふくさ伊三郎も当りとし伊勢の三郎見顕
せまで宗三郎も大当り大詰は路考調子夕霞浅間ヶ嶽
といふ千中娘し浄瑠璃不佛も不得手の調子なれども
とみ翁も評せしは業にあ違し調子至る大極にて中つ
ふりとせし不佛乃相手却る能く大当りにて七月まで入り
落ぐ江戸中山蘭の異と夕霞は浄瑠璃本のあさき和ハな
ひと云しひよし京揚屋町山油紙の多くに粉乃小路考調

子が夕霞の画をすりしを持ぬ人もなかりしと云るとの事なり正月二日
分れ狂言を見じ三幕らし七月迄の大入実に古今無双と云
へし是より前調子狂言にて補屋と城藤をうけたまわり此
時自然と大極に下界ぬ住うち市村座ふて大当りその後
勘三郎座中の龍見世名護屋の狂言柏莚不破伴左衛門薪
か荒獅子男之助」十町ち中ふて 落字アルベシ 調子ハ彩菊にて
屋形をいで屋つしもぶて浅黄縮巾袖羽織まてくるめ
み知らくむかし全盛乃くるハ姉し至らり藝まて大当り
如し此狂言ハ京都知らくむかし此名人坂田藤十郎傾城
柳の糸といふ狂言大当りふく三度迄出して当りをとりし
なりそれを調子ハ工夫をい当世に合ふ中ふかさ里やかにして
勤しおもしろく骨を折らじ口拝きりて当りを取し
なり

一 梅の中之園八享保十九年九春是を京の次第まて尚りを元宗十郎既市をて流行せしハ是かく長吉を中村吉兵衛が子吉義如房小梅源考をもとりあつまりを以ふ家せしふいつとも尚る中村座をり

一 寛保二三年の比市村座寄狂云四月結家智定といふ狂云二番目作を乗三郎ふて沒焼藤を吏と一意をり分しと藤を吏と作を乗岡蒼言吉のつひとけぞつとをるわとふよりしし

一 延享三年大坂浄瑠璃座行中芝居あり忠臣蔵新浄瑠璃并諸子を奇寄国て奇寄技乃大尚り列して祇園祭の生辞大当りあり九諸子作を浄瑠璃ありし吉今方まで記大岸をりと評せし九操座の作者も忠臣義を作りしし

座退散せしし九大坂をて始ハ忠臣義ハ大尚らざりしと云然りを江戸をて翌正月肥前座ふて興行せし九隠月弱を吏大尚り大市村ふて五月ハ忠臣蔵中島三郎二芦水師直九を吏二役魚楽若狭三郎と云川屋二役十郎中義宗九市二ヤク海老ふ石勘ふおその梅幸おる力涙市松堀治判官義義の崎座ふ京々大門津打門三市号をり中村座ふてそ諸子中島三郎中島勘右衛門九吏師直おそ長ゝ年梅延天明五涙村幸千郎宗九市川宗三郎中義先右衛門忠臣義を市村一の尚りを十郎二役尚り海老魚楽を当りを市松おる力涙梅幸勘右衛門を宗九行きを評判よし然共中村座ふて狂云重忠諸子ふて生辞をセし尚りと云祇ふハあゝ林ど重上をる生辞狂あゝバかゝをあるべしと評判よりしし毎年作を作ゝ重夏忠臣義一流よを尚りしし京

中村座にても忠臣蔵六段目迄出せし小行心の由良之助
春も生酔又七段目の生酔をかし見物の目に立まりしが
たれどにはあらずして六ゝ通一躰調子は仕立し粗末の出でざ
るは附之と云べし去ながら九太夫を引よせ四十四の始しぐの
段は言語に絶せし仕うち熱身に実こしなり調子も去の
重忠の生酔まは骨を打砕し五郎俺なしにせし之実に
名人の心いきぬと芝居見功者は感じめたり都て柏莚調子
また名人上手の如く計りにあらで云ふに云れぬ妙なる所あり
見ざる当世の人は備とも思ふべけれども中々以口筆にも述がたき
妙なる味有と云べし　予が見し調子仕うちにては大友常陸之助
の詠又人油屋庄九郎　出来の狐忠信門左衛門京の次郎伍子胥
伊勢の三郎今熊坂赤沢十内今坂小栗太郎好又一遍上人佐々
木三郎小野道風狐忠信いがみの権太平親王将門の七役銘

中油屋庄九郎京の次郎梅の由兵衛など古今無双の当り之生酔
は路考新四郎宗三郎伊三郎勘左郎調子一座の当りなり調子
一分の当りと云ふは外に云ふ之何れも筆端に尽しがたき名人と云
べし去ながら上方にても無類と計記して芝居に居て江戸へ下り
てより大極上上吉無類沢村宗十郎と出されり柏莚と引合る柏莚は
根生を出しられ実に甲乙なしと見えたり　かゝ調子が階子蕎麦とる事ありたしごの数程けんどん
そばをなぶく並一段上をうけるより上手まであるうち七括も九ぜんにて話ども云事にしくたり汁は皆
表役者に為く何卒云立られ此格にと勧請ある程に付去年見世より　調子晩年に及びし比森田座
森田座へ出し立役も坂田藤十郎二代目女形も嵐吉祢山下京右衛門
右の事に中々粗末も出来まじと云しに調子の念の立ち
しそこが水物なり家まづ骨を打て見んと将門次母中納言匡房
庄段の路市奴路内めのと路末百姓路義信藤太秀郷七役を勤く
目を驚かしたり惜むべし二丁町ならば大入大当りたるべきを惜ふ

祖父なりし列侯將門ハ京のうちより出て貞盛（勅使と戰ひ
詰ぜめにきりたてと威力をたけうしずかうもなき凄くさのと恐し
き姿なりなるおし蒲色眼のぬちおし藤脇のあ
らい斗なれた多和凄き神実地將門をかくやと思ふ程なりし
秀句をおして斉藤さま語さ詞ふ迄られぬ意味名人の藝を
かゝる事なりんと笑ひくらう柏莚酒子の為人を玉妙の名人と云ひ

私云ふ業者と云ひて云ふ所なる言葉を称考（姑洗川名人 洗川名次）
市川源五郎 中村仲蔵 中村蔵之丞 佐九郎 舞踊名人
松本幸四郎 千役ものゝ仲蔵と号し志ずゝ
尾和形ようつのまゝ実意あてたびよ尚て再
一旦中山小十郎と号し又中村仲蔵まなびて
四ゝ御甚以テ上ゝとおもやしたれども
目そ然上なおもゝ下ざりしなり

栄屋秀鶴（市川源五郎 松本幸四郎）紀伊國屋酒子（二代目宗十郎の実子初名
あゝされた元祖酒子ちどみくべえきば中ゝ心意の
お遠ちり今の人ふ世ゝ
也一向酒孫屋業用計ひてはさゝにいくぬるとえくたり

元祖
十町

親子八元禄より正徳まで江戸歌役の巻既出て吉ふて歌なぐれた
らしゝを業ゝる藝ゝ人物の外収びしゝとき〳〵十町を実子ゆく
子孫より奴荒事を勤め成ゝしゝて藝を志あげ胡蝶ハ佐九郎
ゆゝとゝ呼れ尚り牡丹数多ゝ享保の始方（登り方ゝ迄ゝ
行て藝を修行ゝ二四年めゆ江戸ゝ下り又元ゆの始ゝ方（登り
寛保元年に市村座（元祖源蔵と一ふ下り二年勤めより
中村座ゝ下り三年目秋牡丹今川橋佐ふ寺沢市右衛門ゝ
病年相三年病死せゝ娘ゝ孫生乃ち萩野伊三郎ゝ妻ゝ
二度目の方ゆ上方ゆて大上ゝ吉ふ上ゝみ一生の尚り牡丹八國性節
和藝四ゝ市村座ゆて大尚りゝ中村座ゝて栢莚如藤四さぞゝ
るへゝと云ゝゝゆ孫の外廣次尚りゝ栢莚さのみ是ゝと
ふゝと此事ゝ廣次ハ大尚りちりゝ庫金義右衛門

百性十作黒沢右ゑもん由井ヶ濱忠郎大森彦七鬼王の志うた
んいつとても尚りしあり若盛の沢大森彦七母〳〵赤つら上下
大孔ぬきみて百氏小川若盛を誘めうれば琴をひうれ〳〵ハ
大小尚りと拾ゑ藝風大阪小らせつうず佐うもたき〳〵実
小舞蔓一ぢい有〳〵拾ゑるを又郎ゑ仕ゑゑ〳〵若盛ハ時小
市下藤吉うすの中より奴姿茶屋反地出打下加平治月
小川若盛郎ゑ〳〵小評判ゑふよゑゑ〳〵班廣次若盛ハ我百小
合ぢ放ゑ具小記さうず

一

一とせ鬼王すて管根乃物ゑうと云吃の百性女房ハ仙若南注郎
ゑて反魂香の又平の佐うも甚ダよ〳〵感心〳〵たり
而他ハ不得ゑ小て東金義ゑうゑ河東姫〳〵ゑて酒中花尚り
〳〵ハ姫と〳〵ふ廣〳〵其外小不市郎の物ゑよ〳〵ゑゑ志ゑゑ
尚りを元〳〵ゑり婚礼福門名護屋小ハ由比ヶ濱忠郎略考

元祖と兄弟ハ名のり愁を姫くみ〳〵藝名吉屋三郎ゑ郎ゑいうぐと
一廣ゑ見物ゑ忍び〳〵よ不被仕ゑ郎ゑ柏延を打擲列ゑうし其後
延享元年子歳見世中村座ゑて一番目ゑ氏とゑう大森彦七ゑ
鬼次ゑて〳〵十町のセ〳〵ゑ氏〳〵吳尺琴の物ゑ尚りゑり
柏〳〵面白ゑう〳〵ゑ佐小柏延志の塚の事務力を拾く悟く十
町ゑ氏小て魏の曹操の姿ゑて十二　の玉乃冠石移りの庚人衣裳
十町肥海の大ゑ姫く十三湯かゑう〳〵ゑ云二番目八竹系ゑ源ゑを
知箱由ゑ郎と兄ゑ〳〵ゑ仕四十町兄ゑ〳〵ゑさるくと云ゑ
て佐ゑ立上り矢若ゑうゑを郎ゑ〳〵ゑて〳〵ゑ勢
ひゑ陽ゑ郎目立〳〵ゑ上ゑ小て作り方より佐の〳〵源ゑ郎ゑ後
を舞〳〵ゑ一義小ゑ及ず動〳〵ゑ小玉ゑ〳〵ゑり〳〵〳〵いうに也四天
王と云ゑ〳〵れ〳〵も也之行〳〵ゑ上ゑ名人と〳〵ふ〳〵

薪水

知名篠塚菊松　後坂東彦三郎

實父何者か詳ならざれども大坂の上方より菓子商次郎右衛門が娘のよし始め菊松と云つる若衆形なりしに元彼しして坂東彦三郎と号す

扨一説男口碑より大坂なる大隅師茂右衛門地獄より若衆のきく者となり三十計の比京へ登り家老役と成継母と無家老の悪をあらはす大小尚り京都三四年も修行せし由江戸一世享保の中比市村座へ初下り評判よく翌年も市村座小屋なりして平場出の狂言小初下り嵐三五郎山本勘助菊次郎出江太郎と申す人なり中村座へ出り拍延調子十町おくるる不破伴右衛門武原のるすよし家老役を持参する上小姓上田村九秩父左次工義鬼王角門の山田の三郎補正成侍後三郎作義忠信なるど何も尚りしなり全狂坊の尚りを好まぬ性大器量なれども芸つるぬ藝なり武原なるか扨八外小似せしなるきく名人なり

岸柳爲の狂言元禄の比大坂小芝川迄三郎月中武義と仰菊水なる大尚り江戸なる芝居一市村座盆ふり志田の狂言小岸柳島を切綱一番目滝九志ゝが岸柳菊水なる志田のなるを岸柳切敷一番桃灯小家名と書く岸柳立のく仕うち二番目月中武者なる仰る岸柳と遠中小出合岸柳志ゝくうやまひ行とゞ古前の芝居小まけて活れとなれまれ共沙小岸柳を称ゝ女兄弟母なるかまひし並岸柳上侍小来り大言慢すて拵をきせ爲ふてるゞる地内を自慢し拵をきゞに武者なる仰ゝ拵爲なるを扇ゝ居なるを扇ゝて拵身を打義ゝ又切くるを引きづゝ拍ゞを抓ゝ拵刀をさゝ法け岸柳を取ゝ伏るなるおさ実小はゝくきの男なるりゝ大切歌舞の後見まで尚り皆ゝ成ゝ人たり江戸なるて名世時計り芝居之手後年

つゝ浦丸が園十郎が彫たせうなるつき秋狩云市村座すて岸柳源をせゝが武者と仲小梅幸岸柳浦丸ふてもに入ゝ藝ゆつにより〳〵されて梅幸ふハおゝ〳〵ゆうふて見だまくなるゝ〳〵まゝ迚白猿岸柳すて門と仲武者と仲見せお意なりゝ〳〵されて武者と仲ハ菊水おつけの役と見へて外の者ふも御意せぬと見へ者より以前市村座なる十町魚乐せしうゞも魚乐が岸柳隨分よかりゝ〳〵うゞも武者と仲ハ菊水のみ外ハ御意せぬ役と見へたりたり

享保二乙丑年霜月芳沢菖蒲市村座〳〵初ゝりゝ尉女猫化粧鑑と云狂云一番目菊水丸成長すてかゞ舞蹈小長勢雷電するふ切幕の四より菊水丸着ゝて推参なり正成世盛長ゞ偽ゞて処ゝ申樂小障礙をなさん抔片ゝふ痛〳〵けハぬ事ゞ見ぬ事云ゝふ面迚ゝ引再〳〵て勝負をせぬう世ゝ見せゞこゝ見いゝを

ゆかわり立帽子素袍の片ぬき片ゝふ接ゞ片ゝふ小鼓を打て宮中をふゝ見ゝ女ゝの出端実ふ立ふおゝの者ゆうふ見いれて見ゝ和ゝふ〳〵面相をゝ見ゝ上〳〵と〳〵二番目も屋ゝり彦七ふて菊水ふ面ゝおゝの実事武ゝ見ゝとゝ〳〵中さんぬ仕ゝち再〳〵見だゝ〳〵有〳〵〳〵ゝ彦ふ面ゝハ不尚りゝゝ〳〵〳〵ゝうゞも菊水尚〳〵ゝ有ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ二番目ゝ酒子松本ゝ義経法男ゝゝ〳〵ゆ〳〵徳見ふて至十月ゝゝ〳〵ゝ大切ゝ座元亀蔵伊三郎三人浜七郎〳〵〳〵十二月五番ゝすて〳〵〳〵也中村座ゝ其彦七ハ役者ゝふて拍延ふ藤川平九郎初ゝり鬼薊乃大尚り玉ふ函考仙魚見茅市松尾次郎三郎ふ長ゝ〳〵ゝ立〳〵ゝ立物を引請市村座のゝ入り落ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ菊水酒子の功ゝ〳〵ゝ世彦七の役八月ゝふ小ゝ浮高の心と見へ〳〵ゝ京都ふゝ出〳〵ゝ尚〳〵ゝ二度目の京ゝゝゝゝゝ彦見せゆ〳〵江戸風のゝまをつけゝ

一

常うとこゝろしるしと上方者は此〜こゝ

酒子中年以後ハ白髮はなはだ多し

小薪水実家元祖の物云ハい川えも見物悦び〜何も

物云う忘れ〜市物産すて柏莚ハ本名職酒子ハ伯父の実悪

薪水を家元まかさたる馬と云故すて薪水を柏莚酒子

吟味の変侮〜ども〜じさりをれバとぎと変紛失とゆゑ

〜実を拙者めが叱矛放さだ情中一座生活すると懐中

より元出〜三ヶ条の不審さうむりと云ゆ〜〜仕うち酒の

外よりり〜ゑ柏莚酒子小角ひさうすが一國の執権職たる

まかさたる馬鹿ハ餅屋おやと参〜初日ハうそ見ふ薪水

を参んとて却どけ迷分に云〜和初日酒の外悦び〜とみ

〜変うり〜月まゝ毎日〜と云〜と也

一

二代目坂田藤十郎 始宮古市 薪水の藝を云伝〜折〜咎有ぞ

せ〜が或時芝居休のありうゝ薪水宅へ来り問〜ハ実事ハ多む

川うし〜き事と存る有り亦何とぞ出ほどにせんと種〜変

〜て励むといへども〜とう〜下昇〜ゆる物ふまり已レと和

くめふさる物〜ふ上達せだいう〜さづきゆと問〜ふ薪水ゆ也

芸をふくみうも分れ〜成る和とそもづくさとの藝を上

ふ人を盗て下和をうけてさる藝風ゆふえゆてる〜打角

問ろ〜有り我ら公一おいを云種り必〜立技せさ〜して能

く物得られよ自分の藝実事師の家元職と云ふて出情

とは見ゆれた一神が郷くよう器用ゑ〜せつ〜が癖ありそれ

を平記るゝば恩地左近うはよりけれども楠ゆ〜お意せ〜ゆ我

られバ本多の酒席りゆおて付〜うれた重ゆふゆ〜れず迫江

小藩ゆいよりれども祐経ふゆ及ぶ位るゆ様をつけず伝とゞ工

ま〜て重ゆがお意されゆ本多の酒席ハ出来るうり去りとそハ

たしき事なりと云〻とえまうす為千帝も面〻
五美せしかども出来ぬと云〻甚だ迷惑せり実恩寺なりてよ
かりしと名人の云る而おしへたがいさりし

一 いつ乃比ゝ柏莚宅へ祖子十町蕪ゝ来り稽古の雑談乃中ゝ
立者のおいきなどとりぐまよ申しせしよ祖子も柏莚よ向し
新ホハ中年の後者もそかゝ云ハれこがはしゝ云れた新ゝ立物
ところてハ余ゝまこせゝとして狂言毎よ尚ふんとおげけ
ると極なく遊廷評判蕪ゝなるものゝ一狂云ゝ尚ると二四年
もそれすて拍子のゝ手内又五美して重るの尚りを云げけるが
ようしを云あるりと云しを柏莚ゝ云ゝ云ゝ柏莚ゝ云ゝ云ゝの極意と
いふ物なり去なれば一ッ尚て三四年も拍内ゝ重手ての尚りを
五美する云られハ云極なるまども大方を一ッ尚ると是ようも
まや上手形象になりいつも尚ると乳がゆるゝ角がるゆるむと一

生中まて打果ると知るべしゝ又藝の風ゝもよるべしゝ是下蕪ゝ我々
なるどハ云ゝ知るまゝ隨ゝ十町なるどハ勝まゝゝ大場なる藝なれ
ばゝ斟酌もあるべきなといへば十町云新とても國性爺和藤内東
宮の義なるゝ市下為者中井ヶ濱忠節大森彦七新掛塚の千代
なるど是ゝ近一ゝ北尚りハ為うゝ六七なるゝでなるゝそれゝ云
人ゝ上手と呼ばるを云へば大きな藝云とても同ゝ意味が
ら心といへば蕪水云いうも新水も若年此者ゝ大坂まて大
経師義兵衛ゝ尚りしゝが出世の始之今ゝ云ゝ祇ゝ
ハあのゝ地藝を考るゝと新なるゝ云ゝ後岸柳
島ハ大坂まて藤川まゝ新をおよまゝ京新なるゝ小為度近尚
りしゝ新ゝ京都まて云ゝ云ゝあれど才一ゝ才三新が極く
まゝていに考りしゝ云ゝ小尚りしゝ唯て祖子のいるゝ
ゝゝ手尚りまて四年ゝとハ行も尚ゝ移て考うを参られ

たりしとて四人為に藝を撰せしを打敗勝負
番〳〵打和琴吉と云ひしに醫師平よ語りしと親しく
きば虛實を考へば面白き事と云へり
移云其比右四人を四天王と云れしほど有て伶人格
別よりは諸人高弦平柏莚酒子為人は面白雜談をおしへなま
見なる「清〳〵孫は上六柏莚」事むつかしき云るなど記八酒子
と云ふ物語し感じ〳〵り酒子が師匠故浜村長十郎と云しハ
三ヶの新藝といふ名ちとの外晴が間〳〵記事とハ云へ〳〵
未熟の間を幕より出るとたれも〳〵が新奇面白なり
上手なれば手ぐるを入れ又いゆきを掛〳〵下ヶ緒をいと里
などする〳〵なる氣なぬよふなれハそれが出世の出なりと
我が和合の附よ名人好田義十郎の面白きとに妙と
云「〳〵然りよ今世子よ此義十郎を云るに面白に氣がつかずな

此比の物語すれ去とそれハ妙〳〵ぎこ後くハ名人小成〳〵と云
見也又妙なり

世俗八幡子帝新敬の家名帝七と云〳〵京はれのもの〳〵子小語りしと記す
元祖園十郎少年の頃市川團蔵
浮り園蔵

市紀

元祖市川右十郎（柏莚が実父）が伝
元祖市川右十郎が伝
上手なる人なり諫云此伝ちちなどいさ〳〵に物語と
思はれずと皆感せ〳〵「稀古風なる藝人陽なる鰭なる人なれ
事ハ為なれた藝人陽なる鰭なる人なれ〳〵と家保
なるかぞ柏莚と不和なるう一旦も国蔵を世ず国義を云ふ定
級小志中小「文字を行く級小有〳〵と家保十七年薙見世小
和合「字を手紀と云移云ふて舞蔵なるて和合せ〳〵と級小柏正
成小柏莚」寸正儀小国義」和合の意味路〳〵義為りと国蔵の御
小初中り作浜為長五郎 元禄五郎四郎 大谷松左つ女りとハ

源義小神崎の[illegible]藤野伊[illegible]帝ありて義兄也帝うせ給て後元和
三年年河原源まて閏月二人源清と云柏英八実八重忠小て
似セ重忠となり寵丸の方刀
[illegible]源を名あらはす場なり方清より盤
八関羽此姿庵[illegible]義刀国義八張飛の姿小[illegible]人押
出[illegible]是えよ[illegible]評判つよ[illegible]子後国義八四の也此帝八
と云男伊達実八義経の[illegible]熊井を帝を亀の内二月寵丸なり
帝村[illegible]を隅田川[illegible]小柏英八栗津帝[illegible]
の[illegible]小[illegible]帝紅[illegible]善の口上書を[illegible]せり帝紅八孫[illegible]
檜[illegible]帝[illegible]源鬼王書[illegible]抔を[illegible]
根元江戸風の実[illegible]事師[illegible]
風の[illegible]
と知[illegible]

京出[illegible]と云国義を猶武者と云[illegible]

海丸

姓杉本七郎　杉本幸四郎　市川海老蔵　市川国十郎
杉本幸四郎　市川海老蔵　能名　五粒　海丸　二幕
俗木場ノ親王と云

元祖杉本幸四郎ハ下総国[illegible]村小見川と云家の産ま[illegible]て
[illegible]郎ノ品より[illegible]実荒事[illegible]
町人なりしか潮く五六度と云[illegible]を以武道の上を知べ
し海丸八実子なりしか甚[illegible]さだか[illegible]実初八七義と[illegible]
[illegible]より娘方より女形と[illegible]より享保十九年[illegible]月[illegible]我の粧
云て[illegible]の役女形[illegible]方場[illegible]ハ[illegible]義を通[illegible]と女
姿[illegible]根[illegible]の[illegible]
[illegible]目立[illegible]翌年[illegible]立役[illegible]享保二十年
五月市村座[illegible]十二[illegible]幸四郎[illegible]

老龍となり浄瑠璃姫に恋慕し姫の指を喰ひ切さまう
諸そふはひし大ひに当りし義経は富沢門太郎浄る
り姫は瀬川路考に相子忠信に薪水佐藤庄司有
鎌倉長九郎六月からの狂言九月迄かゝり落ず当りし事
此役より又悪といふ名目ハ五粒より始しく其後岸柳
の当ハ薪水の伝に記せし之清玄又悪乃不破伴左衛門辰
夜叉法師悪禅師二度右衛門ハ度々当りし別て病身の
五度右中につき大当り此前に一生の当りを叢りし記す七等
四郎 熊坂長範 法師八郎 乞食坊主 高師直
赤星太郎 武者所ちつむの菊王まその楽姿の成たへ
ちんへ借者 平親王将門 秋田城之助悪 久米平内 荒五郎小山
の判官と百姓杵蔵乃二役 八幡がわふらん
下河辺庄司ヶ娘の川ふらんおんなて高野山の

按岩丹波の助太郎といふ馬盗大当り 熊坂と共に当たる乃あまふ
小の道風 熊谷次郎 景清ハ筆にえるへ多くあつし此外
ま 予が見たるも数志れず今按にあるらは八藝にハかゝはらぬ
ぬ事なれば海丸が気性尖き事を予が観しにしゆく
に記す延享三年 宝暦元年市村座狂言禅の末の狂言に海老蔵
太郎 武者にて 仙台萩を入れし 狂言一番目 五郎目に赤星
生酔の出母 棒計にて立役者の役に吸筒盃を請けよろ
と出て腰元役をわれに志ゆらくら和らかに面白かりし時に
此男乃若衆法之助連中 初日に中村市村と互りあふ大鈕
其の此武市人金もなし ゆへ芝居より渡せし手拭をかぶり
切落桟敷際へ数千人づゝ二ヶ所三ヶ所に群立此男種の役者へ手拭
てるなり此初日に右のごとし中役者を招きし中に海老の右し
此役に一向静まりて手を打さしなかりし 其後あ見るかし

目立〳〵いうでなり〳〵されども海老さうあるぬ称して千幕法
仕うち仕舞千次六立自宮明治屋うして赤果ゞ恵庭仙
臺萩對決の恋芸鞆ゑ秋田城ゑ角十町吉原ゑうゑ〳〵浮世絵を
出して接戦よかゝゑ付ゑ海老薪水十町の為〳〵のおゑふ色ひ志
むゝく結〳〵ゆゑ了〳〵と形概ゑ和ふ色ひゑをつき牡云まれ
ゞゑ志むゝく志ゑ宴敗ゑるとゆゑをのぐさて舞台地中正
面〳〵押乗り地の芸流中ふゆゝ中分有世方ふいさゝゝ芸〳〵方
ゑれた西洋ハ行ゑ方拙者をにゝ〳〵まゑ〳〵由蕃ゑ吹世方ふ毛既
覚〳〵ゆ〳〵法〳〵世の見ゑ知ゑ生れ有ゑれハ浮方ゑ仇〳〵
新見ゑの事ハ世方ゑ〳〵才祝ひのゑ云ゑとゑ形知ゑる〳〵
拙ゑり拙ゑ一人ふ限りゑをおれぬハ遺恨有と云〳〵ゑ星ふ
〳〵ゑ苦〳〵ゑす有ゑ者流神行〳〵ゑり方只今是〳〵ゑり仏法ふ
いさゑる〳〵去ゑゝふゑゑゑ浮和と云外〳〵の方ゑ和拙方の方彩ア

ゑれハ拙者ゑ宅ハ者方ゑ知ゑゑ〳〵おゝ〳〵迎かゝゑ我らゑあゑ
仕幾〳〵ゑゑ苦〳〵ゑゑ仕只今ゑゑ未ゑれよ法ふ有ゑよりぬ〳〵
〳〵いゑ〳〵と大書ゑ云〳〵ゑ有ゑ知ゑゑりとして云の西芸する
のゑ〳〵ゑゑさゑあゑゝバ何ゑ云ふ法じやと又二芸ないゑゑ弥西芸西
法ゑゝバ藝ゑ知ゑ〳〵世ゑ〳〵と又ゑ芸和ふ色ひ始の通ゑふ浮浪〳〵
皆〳〵牡云をお為めゑせ〳〵浮志廣〳〵の古見和様方〳〵対〳〵
思ゑゑ法ゑ芸ゑ城下ゑゑと年代〳〵毎薪水十町ふ色ひさゑあ〳〵ば
藝ふ知ゑゑゑ中浮法ゑ為ふゑ西屋ゑゑんと移移〳〵ゑふ藝ゑ
知ゑゑ為〳〵なり

此年八年が廿二の法ゑて噂の者ゑゑ浮ゑ二ゑん目二ゑ〳〵ゑ世〳〵ゑ芸和せ〳〵
ゑ神田内弟ゑゑて八ゑの法ゑ世ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ芸ゑせ〳〵浮〳〵ゑ類ゑ
法ゑゑ夜法和場牡元ゑゑおゑゑ若いゑの法ゑゑんゑゑ〳〵連中〳〵云
西〳〵浮ゑ芸ゑ〳〵ゑ和法ゑせ〳〵ゑゑ

戯場ゑふ〳〵ゑゑ海老蔡英の氣ゑ〳〵ゑゑハゑゑゑ〳〵き事ゑり

[illegible]比山男系町新橋枝市界四日市などの若イ者と号シ名人死
生命ハ[illegible]の流れ者芝居[illegible]
仕合して一統小勢を[illegible]
十町ばかりの間[illegible]に[illegible]
牡丹八[illegible]人あるべかれハ要[illegible]
一 [illegible]今若 玉蔵　一 [illegible]実[illegible]二度[illegible]　一 小山判官ト拝[illegible]　二度
一 [illegible]久米平内義　一 [illegible]作[illegible]米岸柳　一 [illegible]食ぶん[illegible]
一 [illegible]実[illegible]祇園八[illegible]　一 [illegible]実　里[illegible]　一 [illegible]実[illegible]秋田[illegible]
一 [illegible]清　一 [illegible]実　[illegible]
一 [illegible]七[illegible]四[illegible]　一 [illegible]沖[illegible]九[illegible]
一 [illegible]熊[illegible]ト[illegible]　一 [illegible]禅師[illegible]
一 高[illegible]師直　一 不[illegible]
一 [illegible]病氣[illegible]　一 [illegible]小野の[illegible]

[illegible]ける年[illegible]事[illegible]御[illegible]見[illegible]所[illegible]を
記す名人の拍[illegible]名跡を[illegible]
古今の[illegible]と云へ[illegible]

海九　初町　萩北伊[illegible]　梅幸　猫[illegible]
白猿　中車　[illegible]　十町　魚樂　北四人　[illegible]
新車　中車　[illegible]　足業　秀鶴
[illegible]考　[illegible]　栄[illegible]　白子　[illegible]　[illegible]考　猫[illegible]
右[illegible]　[illegible]　暁山　[illegible]
十町　[illegible]松文七　[illegible]　[illegible]
[illegible]松文七[illegible]　[illegible]　[illegible]
男[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

井戸へもの蔭に隠れて密と名聚者ありたん廣次
が仰ありて大音〳〵と名乗り〳〵まが胡紫を年〳〵法く
けり〳〵出来〳〵二三年ありて中村産〳〵うれい鬼次と改め十
町の才子と称り延享二年母の新兄也中村産〳〵藤川平九郎
初り一番目熊の〳〵別当兵衛が子鬼若丸兵衛が幼立赤
姫の子仇安右ふよ〳〵二番目鬼王丸右衛門の風形本石赤
姫の場に源考が仕業〳〵小児を抱き雷降り来り乳を乞
ひ〳〵母義理あれば乳ハ飲さうれずと葉の先をくゞて〳〵源考
うれい鬼次後ろを廻る〳〵の熱顔羽織宮の主黄我
五郎役芸事ぬけ〳〵たる事なり〳〵親兄弟を入〳〵相云
事七九郎を翁黄川ま〳〵ちうと報〳〵大角り鬼次八五郎まて
可徳を情黄川の出合右ふよ〳〵是とう茶屋中村産を大森
新七まて号氏に諫言事ぬり上下大ちゞぬぎまて琴を弘き

元祖十町が譜の通りまが二年秘さぎ市村産〳〵廣次を嫁出累
みを市と称ちよ〳〵を名題出世紅葉物と云相云小名影小
若武者百姿清とい小影鏡面八郎より源考と小影鏡面八郎
七変化出来京四郎より源小市私物の早さを若を吏海道七変小
津市つ三郎競漕四郎新兵衛年推義を名元女うと八仙奥七六郎
松寿〳〵御物華実小若年地源考相乗物千後四郎産まて青海古奥門
武知を席御石合実ちつ奴のお義何も尚りを千を新代三郎
初り魚乗と河津股野の先を小姫て左大尚りを新代三郎
河津着松〳〵潮〳〵十番が物和事まも〳〵大入大盤四郎を三
郎兵衛〳〵ちうま出六郎よ四ゆうぬと兵衛る〳〵ぬちどの大入く
以後魚乗ちの角力いつも〳〵大入ちうあなと笑〳〵姫ちの
角力新水兵我の市〳〵て行司の役新兵の孔雀もよ池
上下目を弱せ〳〵中村産ちて中村産ちの相乗尚〳〵

武智ハ妻子を兼らせし中へ一の大入にて後市村家橘初
花角田川ニ山田民部おんへ切彼よし二幕目ハ山田の三郎ニ
て屋川し女房屋若イ子の古鮒粘平実ハ久米の平内
魚楽やぶ大臣坂東三八をてうす仕うちよし引ぬきの幕
新町九郎助稲荷の坂坂ニ名楽と申き仕合の大だて起し
く大当り之雅粧云乃其跡へ柏莚ヶ神梅幸女形雲絶えて夜
両人大当り其翌年ま粧云にも下り嵐七五郎團七九郎兵衛
大魚十町ハ鬼王にて寸徳兵衛すっぱり大観音を出七右し所
是非なく切殺し無落の樋仰を切とおおびえてしく出
をそのまゝて團七ヶ傷をあらひ観音を手よりへと光明を
すと二階より在代三出ると敵とんとうけ引幕大出来
そのうち市村座にて鬼王ニて重の井新古黒門とあり女房
目さよ仙魚娘のおわんおよのお三吉子延寿之夫婦して

娘を姫君の身がハりに殺さんとするを粧云ニハさらに名乃れ
を涙のみそのハまりし上子同志の出合堪別なり手後是程の
愁嘆なし二幕目実ハ加賀の太夫と云浄瑠璃語りの古志持例
の魚楽在代三と三人の出合見物大ひに悦びしこと是より大男の
對面十町市ニて市大ニ実ハ鬼王者にて雷庄九郎魚楽実ハ
京清魚ニて今ハ大寺魚鋳錬の後へかし見十町以の仕内有て
鋳錬の役を切破ると金出る天間の屋へ引し大当り之主家病死也
江戸中力を落せし之通治の先屋十町ハ二代目十町出子にて其次
と云し之列して中村座ニて其粧云直國橋の髪結床魚楽と
隣り合セ大ひ小れりしこと有抑ヽ出せせかとにある面白
くりし一生名題の当り粧云多し何ヽ小追ふ来の上子と云へし

武知光秀　一寸徳兵衛　河津三郎 同 相撲の場 にて座

湖北宗　　鬼王新右衛門　　男松忠右衛門
天川屋義兵衛　　松王丸　　梅の由兵衛
浜荻丸　　山田の六郎　　鶴鶴むけん

大概を出す事なるべし

魚樂　始発二幕　俗称五郎　中山助五郎　俗名ト号す

寛永より享保十六七年の比迄道外方の上より俗名助寅子
と始市橋町一出中仮名之国月二人京堀の狂言より範頼とちり
諸役あるつれ井場の十義坂田義十郎小男を切られ安宅地住ち
よ里千代後中村座へうつり里みの義十郎と四郎義を出され大ひり
くの目がつき千代市村座へうつり里狩秋梅幸が伝見の久三郎地
時姉和平次およ新水ゆく一日評よく千代延享二寅年
市村座新見世を伊東と梅東平義の二役大切小伊達の俗名
本名結西八郎　大ひよ一日評よく　和二義と伝の市性座へうつ

小て伊郎小敷され子野う秋経二階ちうの出大小見物のうけよく
其後十町と成くのすりいつとする見物ひ一人極つ成名国釜
武兵衛名家平内名四川名国　始座市村座名書狂言男文字屋家
如俗慶子をおよ小男道成ち大面ち子市村座へて先食坊主酒
子子の出居治郎小立身セ一に十町が死後小およ乃ちきちう
に見物ち見ひ一ちひ小見ちる小ち見ち会ち一市橋千つうつ安
達ち示宗任と号よ千一ちうう一小極ち会ち病死せり今地魚乐
も助次の比より評よく親小よ小仮たとて四五年ちりて地ちし
ち見和だん一義一なり弟の魚乐が住ち市ちをうち一忘れ
ちうて治郎一に評ちすく今八中村座の浅元小て義ちに助寅
をゆづる出情ち見た覚東形一上ち幸市幸右衛と見ちたり

釜屋武兵衛　　姉和平次　　石川嘉つ　　清西八郎
久米平内　　ぢち三郎　　蘭平　　男道成ち

百姓源藤吉
檜物屋
源考　深村氏

婚姻　結　工藤　徹川氏家臣
松　王　宗任

京都生れ池上幼年より才智人に越し能く学問に勤し容貌美麗なる事なれば高人となり二十計迄は京都に居川原町に居り小若年より主人より心を配り女形を成し瀬川菊之丞と名乗り瀬川の名字は源考に実すれ共由来は豊臣大閤朝鮮征伐の軍士の中瀬川菊女と云武士菊と云小書をもとめ今日婚礼せし豊臣日急に朝鮮へ立べしとの厳命ゆへ名残れしむる事異国乃軍旅に赴し妻の菊ゑ別き惜まれ涙ぐみ泣くの花御便りは彼地へ書ハせしに満路風波に手紙破れ〳〵来たるもの僅に数通に過ぎず方々尋ねす流浪うせし小菊女が思めやり〳〵文若ハ肥前名護屋なる大閤の陣屋迄〳〵深び来

り〳〵を書人に頼よせかれ是と泣せ〳〵を大閤の聴に達〳〵右の仕業を元より世自分元出〳〵まよ法せ法〳〵なれ志貞節を感ぜる此菊女瀬川菊女朝鮮の軍役をゆる〳〵功朝ぶべ〳〵して早く功りまし帰永〳〵菊〳〵と云ふ菊女が操を学ぶべしと云全く菊女ら貞節より起り〳〵と云ふ菊女が操を学ぶべしと云全く菊女ら貞節より瀬川菊之丞と号せ〳〵が名人と成〳〵なり源考に称心ゲけよく年日男此行源考〳〵始終女乃藝のこと小〳〵終り〳〵上こまでハ始さのこと終なるなずあり〳〵上山岳伝まで〳〵無間鐘狂言初の下り八幡宮係十四成歌尽七中村座くり〳〵り美量〳〵〳〵聖年文書婚礼福引名古屋と云狂云相是迄源子十町左列る面白く源考山之女房かつ〳〵記る山之の親家を救うんとよ水神を祈願の種姫る大尚りく其後上之〳〵行て尚り〳〵左列〳〵ゲ四限めり切細是又ちひふ〳〵〳〵〳〵源考の功なり聖春狂云おまを石橋

よりて次始終の家ず尚りけるのなりしに中〳〵尚世俗者の及
ずぬ要なり其後市村産に移り柏延十町村より過若りて此尚
なる松ちの為り元の元年此上方〳〵より寛保元年の春尤
世市村産より女業半あり〳〵羽三成まで曾我小産元と云
雲行より〳〵甚次石橋より〳〵十町藪の素面麻布下る紹牡丹此
造り如夜人拾七藪水以上る十町夜人姫絵見物〳〵花屋
うなり壬年石橋とうぬ人強急なり〳〵わざのなる〳〵羽三文素
曾我小作蔵産司り娘多ぶなれた大磯の安良屋二浦屋此之
梅と云産家十帝と多る金稼生産嬢如〳〵拾出〳〵と
髪を文年も出きれかし〳〵延ると切り拾〳〵加産蒲屋
と云が牡丹の筆見忠信藪水多こたんどる此加夜よを
縛り墨〳〵にと〳〵と祐成祐云の墨すを此二階の屋根〳〵より
墨の酒飲さぬ〳〵と氣そぐろなる酒をうきどろて皆〳〵

吸ふ限るす仕うちそりとする祐母涙〳〵二たんめ大詰小姫
白雪佐村京菊黒雲佐野川千菊楓紅と夜〳〵なる〳〵此たその出て源
考出小鄙の衣浅黄此花ぶうし仕よ梅香煙行よふ
思の陽数を〳〵小鉢を吸う孫衛の玉堂檀上〳〵より志ばし
志て菓五帝世産五の若流姿扇小移りの羽織いりに赤瓜の
紋をうるをうけ松む〳〵此種を出て乃出うつ〳〵ぼくめ
機嫁も志んとなり〳〵壬藤小柏延の明神の通と云〳〵る源考
も梅幸も十分の出けあり〳〵なる小実小〳〵でありと云小
此事なる〳〵と法元和辟るぶ〳〵元和〳〵う大切小岩
屋小かく〳〵菓なる逆沢深の護をうんと産棚小岩屋〳〵より泊
連を切ると大雨雷電〳〵菓五帝上り菓〳〵産棚乃急なる
を腹だいすて〳〵うんはをうり産棚の為小〳〵〳〵より〳〵と二
中ぐり〳〵吸〳〵ひ〳〵花をう護をう〳〵〳〵うんは切す〳〵〳〵まみ

身のかろさがを打しらう略考大荒まて四帝亀裁蓋世大井
打ふて略考奉辞畳〳〵押分〳〵て幕大入大喝りとハ是を云
べし〳〵是後是夜討の時十帝母有対恨を仕う与略考
六人斗有神けの為紀孔雀うづ白浪後小蔵曇と云六人
の事をちら〳〵白むく白の事ね白編絹の志づき帯一つたい
くを〳〵してうすどろまて切まゝ出〳〵四月節句五月
さつもけ立ゆふちりと云者多うし〳〵ことゞ白衣紀者まて
成仏述庭先行野を二浦が蓮の朱達旭の霊像為〳〵押出
鐘殖と観音を二ゐるようし〳〵を浦〳〵為て七月四日迄
限り小結〳〵十四日が後日東禮といふ様云略考異氣中り
れ出ゆ〳〵小尚ふざり〳〵
略先小ちり〳〵右を二度目小市村庄十郎左和と一ふまり
を四ゐ〳〵年四神ちり二度目のちり八寛保元四十月なり

一

姿繕女業平と云様云大江岩方ら女房ら〳〵を方ら深
小鬘を切二むゝめ業平と偽り勅使小来り〳〵を大使黒三が
亡魂ら〳〵ふ様ちり〳〵ると志〳〵ず姓高親王方の者多
の事を問かけるをお〳〵も滞ら〳〵て和歌立義小者百首の立義
色〳〵惟高市山伝帝小若ふる雑音皆〳〵恨れる中殺毒伝様の
一老清名ら伝ら大出来〳〵
京保元年嘉祥云市村庄玉柳笛化粧男我ま小姓吉三小
略考八百屋お七萩の伊三郎お杉仙魚ゞ白浪実ら小紫
掃部岩井ま七郎之ら情山本之ら帝釜屋武蔵小中島
亀右衛門ちり〳〵始仏ち方ら略考小小姓吉三実ら本曽
若衆清水冠者〳〵と略考仏若ま〳〵ひとれら女形
ちり女一通の様ちら葡むゞ〳〵若衆ら女ようて歌ら葡
ら事ちゝゞと承知世ゞ仏若略考若衆形様〳〵きを一種

にあらざりし程芸を路考勤めざれバ世の人たゞて古の小姓
吉三郎本狂女ゟ山吹御前なれバ源氏をたすかり世を忍ぶ
身なれバ小姓と成しと云事小路中さば勤らるべき座と問
しに本狂女の役なるが勤べしとて滞なくつとめしく
此程げんお七がきんずのうちなるべし婦路女の狂崩れ
ず忘るゝもぬれ事御あんずいは芸家に絶せし之ヿ事目大詰
ぬ新部の御房之二度何真次郎其外権家なりし大名之人
吉三郎を呼出す出端宝の素袍小結乃烏帽子を被り
其の出立花やかに珍らし二藤兄弟甚外問けるに一寸ず
やうに若き言葉なよし松旭のこと宝塔にあるをまいらんと
とかゝるを直ぐ小藤を始けるを切まて源の物語り母ら
が父小栄の前司と名のるべきものどく此器入ハ実の女此仕
感心しさせて宝塔へかゝると女といひ今小藤を母子と見せし

血汐の前ぶれまで繁長くなり女と成侍うち大に当りしくと部
書目お夏にて清十郎座元吉人座紛不絶面白かりし路考ハ
此芸をせぬ人の様子今の人を一向に見ぬ人の評と知べし其後
中村座ゟ羽衣芳我に天人不絶名残まで古今になりしハ実に
惜むべし年の事を能忘るゝ老ハ七十三なりと申し路考ハ
此芸あどけなく娘のとし前々上手の女形年くりけるを藝
忘がちなるをおかしも甚意味なしいつとてもぬきでる娘ぐさ
あどハ座ハしと生娘のとしおんなしハ娘と云べし小本不
押上村大雲寺に葬し元祖座頭同じ寺之二代目路考を
当時の人能見しく藝も当りも知るべければ是ハ略す是又若盛
て病死今に諸人惜しめり二代目菊之丞とお七吉三郎
揃えし人々今に云出しして回向の種となれり是又中年
ならば名人なるべし元祖路考の名いきさ當り藝紙筆に尽

しかるに大昔のる人志ずかなれども古と家の名人と云
べき三代目今世の孝一毎りなるぬよ実ふ三代連絡せ
お續の名家之

仙魚　淀川菓子屋　地藝

始京大坂ふ〳〵若流形より娘ふくれん世話事係十七子家月市
村ゆく初ちゆく市川家之市と云ふ市の国産の勇之東山殿
花舞台と云名影産組八産次元祖薪水元祖杉暁元祖中
村吉之閣女形之二条高砂市軍川新勝山下龍杉之仙魚八
出雲の国の生れのよしされた尚りと云ふ祖の事も有る
しかる春粗云松伴梅根元芳我小おも仙魚吉三八お市
小ゝ高砂市之樣七矢倉吉の敵を打ふよゝ常りよ
子八病身ゆえ元で孫意ちゆしかし仙魚八孝と遠し量量
さのゝ英しゝゝ孫ども孫藝小ゝ尚りよゝおも七家お杉

ゝ家いつゝゝゝゝゝより仙魚が地藝八格別の心いき有ゝ言小
いられぬ意味有甚接授業量美賞と云祖ゝ子ゝあゝ祖ゝ傾城
事よゝ男節孝心の仙意孝ゝ有る上ゝ有り寛保元年七月市
村座四目結家留定ゝ云粗ゝ一番目長崎丸山の古文連山
のおゝみおしゝ尚氣なゝしかしてゝ求すしておりしゝ
切小山吹茶の民道ゝ有りゝて見射七しゝ部番目名
篠田吉同娘お世ん米お市之龍彩と非人敵打女菓地ゝ海丸女
荒岡ゝ産元ゝ手物大尚りゝ敵ゝ市山結五市面人ゝ大尚りゝ
仙魚八孝心の仕ゝ有ゝ俗五市八大ゝ有ゝ小ゝ杉ゝ
おゝしゝ言ゝ元面人拵ゝの尚りゝ仙魚八不尚りゝ人の時ゝ小
しゝゝゝげゝ牙にしゝみて勤しゝ元月物のうけ格別ゝ
しゝ手後市村座役ゝしゝ名護屋芳我小傾城かゝ記仙
魚不破伴右馬丸海丸山ゝ市小龍彩伴右馬大魚むゝん

仕うちがつて本ふ意慕して人ごけとも山三あれハ一向返事
せねバ傾城ながら心をつくし衣裳おくりて送りえより
植木八山三ふ合を入し衣裳を紅を着してみる所へ傾城の色
くさくかき指切して送れたりだ大ふ悦り着て居る衣裳并ニ深
どらの内のを皆掛傾城の揚りやりし之是迄なるびてハ踏らび返
させし上林のなつ来と云立派な全盛の太夫が裸で道中
となるやひざふづくさその小さき仙魚か云すてまへつと立ち
着しる小袖を踏ふたでぬぎつヾらの上へ重ね重身を投出
ぢゆぜん一つ分て帰る場古今希代之傾城ついよく怒り
汝ヾらの衣裳元出し仙魚がぬぎし一知ら思う方へありり出
紅下浅黄ぢゆすかヾし裏水仙の縫の小袖紋の薬皿燭武
振なるべし上へかつりれる中小ならつしとめえるを仙魚も
海丸もなりかしそか満ちば他見するうち絶えらせて

まとめとれしる里かよふ姓す今の役者まらごいりくするや
覚え来なし甚後栢莚仕すびの助六の時揚巻ハ仙魚と云ふ
ハ宗三之栢莚老後助六ゆへなるいうびと名乗し小仙魚揚巻
の仕うちたる花のかに若しくせし衣栢莚もとみし之甚程芸
一まず目重忠要方绪笠ニ京清女房あこや席目ある名達な
ぢの局沢村源之丞が悪をを切殺し死がいをかくしみる
求く仙魚扇をかざして仮屋の幕の内よりかいどり姿なぎな
たかいらとなりても声ふ次あこやに庵り丈ト京清が人形に絵
書し柢札を切るに小ときまるみ静に立しかくまを切ま
くへらんとするを仙魚ならけ京清がつまにいやまして立ち
けるといやめふり返りなるとぬかと本舞台へ席りるへ姓
立兵ぶ請て抱息をつめうしに仙魚目ふぞふ丸を對角なる
しふ連行と渡し重ねその元来と云とあらや情ハなきけ

主君地位の低きと高き の別なく幕まくを引と共に一回毎酒肴を注きまぐつ
と云あり志ぐらくを呼ぶまぐつ〳〵行者の切義〳〵より巻ら
き抜と云〳〵是全く高〳〵たる名人の出合拍莚酒子回日の諸之
と共に の人 [illegible] 世治小記 [illegible] 虚実を考 [illegible] 孫氏 [illegible] 考うと
（出入醫師おし〳〵形を飾りて市が方へ来り〳〵手者の注之
ある附仙魚兄路考母 [illegible] 女形の [illegible] いで會得 [illegible]
屋見れも随分と [illegible] 和れども貴兄の指よ和〳〵小藝
小つやの首中ふみ [illegible] 甚 [illegible] 小 [illegible] 考 [illegible]
の不審〳〵古人芳沢あやめと云〳〵女形ハとう〳〵傾城事さと
能出来れバ外のるいう拍子もなる初之傾城すがあ〳〵れハ案
の事ハよ〳〵ても未のそげぬ初之とひ〳〵ハいろ見名人の洞
感仙せり歌ハそれを忘れすを [illegible] 〳〵手方ハ

其方の浮世たる和見れハ歌が [illegible] 〳〵る而格列之去 [illegible] 〳〵女形の字に氣
がつけバ [illegible] 形の字に成で〳〵 [illegible] 氣のつぬ [illegible] 〳〵と [illegible]
ハ [illegible] 仙魚も成程 [illegible] 之と云〳〵と之名人の語おり [illegible]

壁府

佐野川市松　若元方　女方　代の上よ

壁府ハ佐野川市松　始芳菜才子ふして京大坂ふて [illegible] 後の附
ようと名言うり〳〵之手後若元方ぐ [illegible] ふて元文五申年二月中村座
つり菜花咲芳我小言雅也小性之事と聊評判より次ふ十座
牛若の中川〳〵牛小姓の笛を後〳〵安より二年寄も勤〳〵安
ふ〳〵評有て二年寄り也佐 [illegible] 出勤み〳〵評判
よ〳〵あ [illegible] の内すて若元形如形尚り多〳〵女形すて [illegible] 世話事
面白〳〵若元を楠正行すて師直市川宗之と法合能市村すて八
芳我立帝物雅の事姫又額の小三又酒子二度の梅由名情
出吉と形宗五又おぐこ人形石化行きもよりり〳〵十年寄

地勸ゝて本樹寺へ移し奉り慶長十年寿
上方小屏〳〵乃ゝ出藏ありしのうち如飛ゝて鹿苑院殿
大小評判ゝ〳〵まよ星三年めゝよ古人とゝ一称笑量よき
れ男女云ゝ知れ云ゝ〳〵しく〳〵ふれ〳〵次帝より型玄
八百屋娘お七と佐の〳〵次帝佐野実八橋次帝佐野の百姓
次帝右京助立帝を報ぜさの〳〵新橋乃場其次八橋が芸を
折牡丹の八橋の住居大西りちりを後箕さがりよ武新
源義経よりゝ〳〵其後より星病まして九月病死せり
〳〵まぬ人ハ〳〵〳〵藝風を二代目中車ゝ〳〵中車
ゲ敵後をきめる氣味よきを見〳〵伊三帝を呂ひ
〳〵鹿府初町八名人小さあ〳〵称ゝを一代の上なる星
小〳〵いろど面白き所の有る藝ゝり